

オーストラリア4カ国大会 2017 (メルボルン/オーストラリア)

大会名	International Festival of Hockey Melbourne	日付	2017年11月9日
場所	State Netball and Hockey Centre	天候	晴れ
試合	第2戦 (予選リーグ)	通算結果	1敗1分

Country	RESULT	Country																
オランダ The Netherlands	6	1 日本 JAPAN																
<table border="1" style="margin: auto;"> <tr><td>1P</td><td>4</td><td>-</td><td>0</td></tr> <tr><td>2P</td><td>2</td><td>-</td><td>0</td></tr> <tr><td>3P</td><td>0</td><td>-</td><td>1</td></tr> <tr><td>4P</td><td>0</td><td>-</td><td>0</td></tr> </table>			1P	4	-	0	2P	2	-	0	3P	0	-	1	4P	0	-	0
1P	4	-	0															
2P	2	-	0															
3P	0	-	1															
4P	0	-	0															

Start	No.	Name	備考
	3	PHENINCKX Malou	
	3	LEURINK Laurien	
✓	7	de WAARD Xan	
✓	8	KEETELS Marloes	C
✓	9	DIRKSE van den HEUVEL Carlien	
✓	10	JONKER Kelly	
	3	12 WELTEN Lidewij	
	4	13 van MAASAKKER Caia	
	4	15 MATLA Frederique	
✓	17	van den ASSEM Ireen	
✓	18	SANDERS Pien	
✓	20	NUNNINK Laura	
✓	21	STAM Lauren	
✓	22	KONING Josine	GK
	4	23 van GEFFEN Margot	
✓	24	de GOEDE Eva	
✓	29	KREKELAAR Maartje	
		30 REMMERSWAAL Julia	GK
ヘッドコーチ		ANNAN Alyson	
UMPIRE		CARROLL Emily (AUS)	

Start	No.	Name	備考
✓	1	景山 恵	GK
✓	2	内藤 夏紀	
✓	5	一谷 麻実	
	4	8 真野 由佳梨	
	4	9 永井 友理	
	2	10 永井 葉月	
	7	11 野村 香奈	
✓	12	及川 菜	C
	4	13 狐塚 美樹	
	4	14 瀬川 真帆	
✓	16	辻井 紫歩	
✓	17	一谷 奈歩	
✓	19	金藤 祥子	
✓	20	清水 美並	
✓	23	田中 泉樹	
✓	24	西永 優衣	
	46	31 赤谷 衿香	GK
✓	32	湯田 葉月	
ヘッドコーチ		アンソニー ジェイムス ファリー	
UMPIRE		BEFORT Maggie (USA)	

Country	Min	Name	Action	Score
NED	4	JONKER Kelly	PC	1-0
NED	6	WELTEN Lidewij	FG	2-0
NED	10	KREKELAAR Maartje	FG	3-0
NED	15	JONKER Kelly	FG	4-0
NED	24	WELTEN Lidewij	FG	5-0

Country	Min	Name	Action	Score
NED	26	WELTEN Lidewij	FG	6-0
JPN	37	永井 友理	FG	6-1

前半 (第1Q、第2Q)、オランダのセンターパスで試合が始まる。現在、世界ランキング1位のオランダは、持ち前のスピードとスキルを活かしながらプレーを組み立ててくる。対する日本も、まずはスピードとプレスを活かしながら流れを作ろうと試みる。序盤、日本は相手の作り出すスピード感に慣れることができず、チャンスを作られてしまう。4分にオランダがPCを獲得、ドラッグフリックのシュートを止めるものの、混戦からリバウンドを決められる。日本はプレスにより相手スペースを狭く限定しようとするが、相手の速く正確な1つ1つのパスにより、日本の固い守りに少しずつ隙間を広げられてしまう。ここから、オランダの猛攻が始まる。特にターンオーバー後のトランジションが速く、守りの体勢を整える前に攻め込まれるケースが増えてくる。ここを踏ん張りきれず、日本は6分、10分、15分、24分、26分と立て続けにオランダにフィールドゴールを許してしまう。

後半 (第3Q、第4Q)、日本はプレスを切り替え、まずはオランダの強みを封じることが徹底する。日本はしっかりと忍耐強くこのコンセプトに徹し、徐々にゲームの流れを引き寄せ始める。オランダからは、切り替えたプレスに苦戦している様子が窺え、相手の攻撃のビルドアップを封じ込む。カウンターチャンスも増えてきた日本は、37分に、#10永井葉月がサークルに打ち込んだボールのリバウンドを#16辻井が素早く反応し、ファーポストにいた#9永井友理にパス。それを確実に決める。その後も、日本は切り替えたプレスに徹し、オランダに良さを出させない。日本も追加点を狙いたいところではあるが、オランダのボールへの徹底した早いチェックに、なかなか攻撃のビルドアップをさせてもらえない。試合は1-6のまま終了。

しかしながら、特に後半において、世界トップの攻撃力を誇るオランダに対して、日本は試合の中で守備全体の適応力の高さを発揮した。このことは、さくらジャパンの最終ゴール達成に向けて大きな収穫となった。

オランダ	2	PC数	3	
	10	シュート数	5	日本